

2017年は、民間ユネスコ運動発足70周年です



発祥の地 仙台から世界へ
UNESCO 憲章の理念を未来に

これは、仙台で開催された「第1回ユネスコ運動全国大会」のポスター(1947年)です。今年の全国大会は、70周年を記念して発祥の地 仙台にて開催されます。

会期 : 2017年7月15日～16日
会場 : 仙台国際センター
主催 : 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
特別講演 : ラジェンドラ・クマール・パチャウリ氏
(ノーベル平和賞授賞)

民間ユネスコ運動70周年を迎えて

(ユネスコ通信 2017.1 vol. 1155より抜粋)

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない…【中略】…政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かれなければならない。【後略】(UNESCO憲章前文より)」

いまから70年前、この言葉に突き動かされた人たちがいた。戦後の日本が国連の“良心”と呼ばれるUNESCO(国際連合教育科学文化機関)の加盟国になることこそが、平和への第一歩と信じた人たちだ。こうして仙台の草の根の人びとが立ち上げた動きは、ときを同じくして瞬く間に全国に広がった。官民一体となったこのUNESCO加盟運動が功を奏し、サンフランシスコ講和条約締結前、UNESCOは占領下の日本を加盟“国”として認めた。日本が国連の加盟国となる5年前、1951年7月2日のことだった。

民間ユネスコ運動70周年。私たちは忘れない。終戦後間もない日本で、あの日「平和な明日」をつくろうと立ち上がった人たちがいたことを。私たちは続けていく。一人ひとりの心の中に平和の種を蒔き続ける活動を。“Peace for Tomorrow”すべては平和な明日のために。



「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」は「プロジェクト未来遺産」2016 に選ばれる！

◆ 未来遺産運動

100年後の子どもたちに、長い歴史と伝統のもと培われてきた日本の文化・自然遺産を伝える未来遺産運動。各地で取り組まれている活動を応援するため、2009年に始まった「プロジェクト未来遺産」は、2016年度で8回目となります。2016年12月7日(水)に開かれた未来遺産委員会で5つの「プロジェクト未来遺産」が選ばれ、全62プロジェクトとなりました。その中で、私たちの身近な団体を紹介します。

「玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト」

団体名 : 玉川上水ネット (プロジェクト未来遺産推進委員会)
推薦団体名 : (公)日本自然保護協会

武蔵野台地を東西に貫き、江戸・東京で暮らす人々の生活を支えてきた玉川上水と分水網の保全・継承活動。この流域で活動する17市民団体と6個人が玉川上水ネットを形成しています。調査活動や自然観察会、自生ホタルの復活・研究をはじめ、武蔵野の自然環境と周辺地域の史跡などの歴史的な景観を守る活動を行っています。



学び舎江戸東京ユネスコクラブ

事務局 fax : 042-345-5518 〒187-0032
小平市小川町1-904-56